

令和4年度(2年次)

「主体的・対話的で考え議論する 道徳科の授業づくり」

～道徳科の授業の学びを深める
効果的なICTの活用場面を通して～

北谷町立 桑江中学校

〒904 - 0115
北谷町美浜1丁目4番地7
TEL (098) 936 - 2244
FAX (098) 936 - 0172
<https://kuwae-j.edumap.jp/>

取組の概要

- ①年間計画に沿った35時間22項目のバランスの取れた授業の実施
- ②学習のねらいと発問の工夫
- ③効果的なICTの活用の推進

4つの研究部

具体的な取組

授業づくり研究部

主に授業に関すること

ICT活用研究部

主に操作や活用方法

調査研究部

主に生徒、教師の実態分析

環境教育研究部

主に学習環境の整備



先生方の研究会の様子



山田貞二先生による研修会の様子



各研究分科会の様子



検証授業の様子



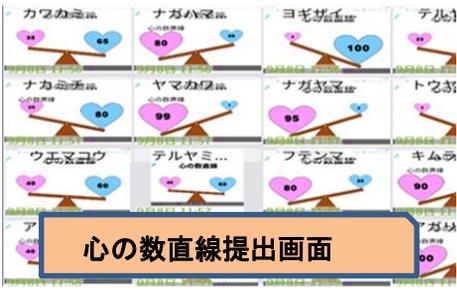
検証授業の様子



心の数直線操作の様子



先生方のICT研修の様子



心の数直線提出画面



ロイロノートツール活用

主な効果・成果

生徒の成果

- ・授業の振り返りにおいて単なる感想だけではなく授業のねらいと関連付けてまとめることができた。
- ・心の数直線やシンキングツールの活用を通して思考の深まりが見られた。

教師の成果

- ・計画的に22項目、35時間のバランスの取れた授業を実施した。
- ・ローテーション授業を行うことで教材の深化を図ることができた。
- ・ICTの活用を積極的に行い授業の工夫改善がなされた。

「主体的に自己の生き方を考えようとする真和志っ子の育成」

～よりよい自分をつくり、ともに生きる力を
育む道徳教育を通して～

取組の概要

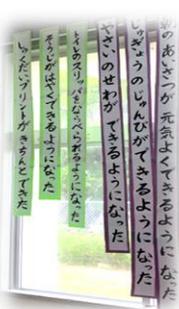
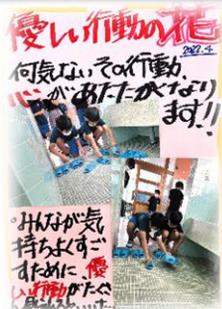
昨年度までの取組 + 今年度新たな取組

- ①全体計画及び別業・年間指導計画の見直し・改善
- ②考え議論する道徳の授業を要とした道徳教育の在り方
- ③道徳の授業、道徳教育をつなげる環境の工夫
- ④児童のよさを伸ばし、成長を促す教育活動の工夫
- ⑤児童の学習の基盤である学習環境・言語活動の充実

- ⑥共通実践事項を設ける
 - ・話し合いのルールを設定する
 - ・「つなぐ」を意識した授業展開
 - ・ふり返りの充実を図る
 - ・補助発問の強化に努める

具体的な取組

下記に示す「具体的な取組」は一例です。他にも取組の概要に示す別業の見直しを定期的に行ったり、共通実践事項に関する掲示資料を配付したり等様々あります。



自分のよさを自覚し、友達のよさも見つけてあげられるように、賞賛(価値付け)したり、共有したり、ふり返ったりする。それらを可視化して常に見える場所に掲示する。



道徳以外でも話し合いを充実させたり、特別支援学級においても授業改善に努めたりして、学級、学年、教科の枠にとらわれず共通実践事項を生かした研究を推進。

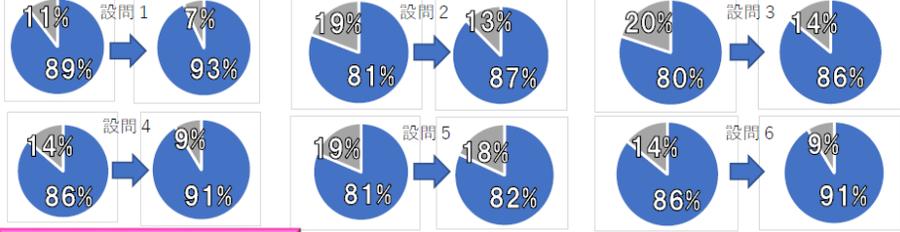
毎月道徳専用掲示板を充実。実際に足を止めて見ている児童。

道徳の授業や、校内研究の取り組みを保護者にも周知し、学校と家庭、地域をつなぐ情報源としている。

【児童実態調査の設問】

全学年	
1	自分のよいところをばそうとしたり、苦手なことが少しでもできるように努力したりしていますか。
2	道徳の授業や学校生活全体を通して、もっとすてきな自分になるためにどうしたらいいかと考えるようになりましたか。
3	道徳の授業では、友達の考えをよく聞いて話し合ったり、自分の考えを書いたり(または伝えた)できていますか。
4	道徳の授業では、わかったことをもとに自分の生活をふりかえっていますか。
5	自分にはよいところがあると思いますか。
6	人が困っているときは、進んで助けていますか。

その結果



主な効果・成果

- ・5月→12月の児童実態調査。
- ・はい、どちらかと言えばはいを肯定意見と捉え合計して表出。
- ・濃い色が肯定意見。

○全設問においてさらに肯定的な自覚が上回った。

○各設問に対する手立ての意識調査を教師側にも実施した。そして全項目において100%を示した。このことから、教師の道徳授業や道徳教育全体に係る意識の変容がうかがえる。また、上記のような「道徳教育の充実」(授業と生活とをつなぐ手立てを充実する取り組み)が効果的と考えられる。

○教師は、発問を充実させ児童の考えに寄り添って共に授業を創る意識が高まった。そして道徳を起点に児童が積極的に「考え」、「議論する(話し合う)」ようになってきた。

取組の概要

研究の柱
 ①深い学びの鍵となる教材解釈⇒教師が指導の明確な意図をもつこと
 ②主体的な学びにつながる指導過程⇒道徳科の見方、考え方を大切にする
 ③対話的な学びにつながる発問構成⇒思考の深まりをねらった問い返し

具体的な取組

研究の柱①
中心場面における教材解釈

中心発問と問い返し	指導上のポイント									
読みだすことばしながら、かぼちゃはどんなことを思ったのでしょうか。 問い返し：どうしてわがままは、いけないのでしょうか。	低学年ですから、行いや行動の結果に注目して大切さを押さえる。わがままが過ぎると、自分も周りの人も、いやな気持ちになることから、わがままをしないでよく考えて行動することの大切さに通っていく。									
<table border="1"> <tr> <td>教材</td> <td>状況理解レベル</td> <td>・つるが切れて、かぼちゃは涙を流した。</td> </tr> <tr> <td>登場人物が感じたことや考えたこと</td> <td>心情理解レベル</td> <td> ・みんなの言うことを聞かずにわがままにしていたから、こんな痛い目にあった。 ・みんなもいやな気持ちだった。 ・わがまましたら、自分もみんなもいやな気持ちになるんだ。 </td> </tr> <tr> <td>道徳的価値についての考え方や生き方、態度</td> <td>道徳的価値レベル</td> <td> ・わがままな行動をしていると、自分も周りの人も、気持ちよく生活できない。 ・したいことをするときも、よく考えてわがままをしないように気を付けると、気持ちよく生活できる。 </td> </tr> </table>	教材	状況理解レベル	・つるが切れて、かぼちゃは涙を流した。	登場人物が感じたことや考えたこと	心情理解レベル	・みんなの言うことを聞かずにわがままにしていたから、こんな痛い目にあった。 ・みんなもいやな気持ちだった。 ・わがまましたら、自分もみんなもいやな気持ちになるんだ。	道徳的価値についての考え方や生き方、態度	道徳的価値レベル	・わがままな行動をしていると、自分も周りの人も、気持ちよく生活できない。 ・したいことをするときも、よく考えてわがままをしないように気を付けると、気持ちよく生活できる。	
教材	状況理解レベル	・つるが切れて、かぼちゃは涙を流した。								
登場人物が感じたことや考えたこと	心情理解レベル	・みんなの言うことを聞かずにわがままにしていたから、こんな痛い目にあった。 ・みんなもいやな気持ちだった。 ・わがまましたら、自分もみんなもいやな気持ちになるんだ。								
道徳的価値についての考え方や生き方、態度	道徳的価値レベル	・わがままな行動をしていると、自分も周りの人も、気持ちよく生活できない。 ・したいことをするときも、よく考えてわがままをしないように気を付けると、気持ちよく生活できる。								

教材分析シートを活用して、教材解釈を深めた。

研究の柱③
中心場面における発問の工夫

他人事として考える
(自我関与、共感・批判)

自分事として考える

心情理解レベル

道徳的価値レベル

中心発問+補助発問(問い返し)

- ①切り返し
- ②思考のゆさぶり
- ③対比・分析

児童の反応を捉えて、補助発問を意図的に、また、臨機応変に使いこなしましょう。

ねらいとする道徳的価値レベルまで思考を深めるために、中心発問と問い返しをセット発問で構成。

研究の柱②
指導過程

導入	問題意識を持たせる 教材を土台に自分との関わりで考える 《教師》 ・中心発問と問い返しで 価値の深まりを目指す 。(心情・思考・価値のまとめ) ・つぶやきをひろう、つなぐ ・登場人物の心情を視覚的に捉えさせる教具の工夫(心の可視化) ・板書の工夫(心情・思考・価値のまとめ)
展開	《児童》 ・自分の考えを持つ。 ・相手の意見を尊重して聞く。自分の意見と比べ、 人間理解で終わらず、価値理解の考えを大切に する聴き方 ・考えをまとめる手段として「書く」活動もあり。 ゆくゆくは話し合いにシフト
終末	振り返り ・考えたこと、分かったこと、思ったこと



主な効果・成果

授業改善を中心に研究を進めた。その結果、教師の教材を捉える力が高まり、中心場面での中心発問と問い返しの発問構成で授業を展開することができた。道徳的価値に結び付けて児童の思考を深めるために対話活動に時間を十分とる必要があり、指導過程の工夫とともに児童の聴く力を高める手立てを講じた。相手の考えに耳を傾け、自分の考えと比べながら主体的に学習する児童の姿が見られるようになった。教師の問いかけ(仕掛け)と、意見の交流で思考の深まりが見られ、主体的・対話的で深い学びの授業が実現できた。

道徳の授業におけるICTの効果的な活用

道徳科の どの場面で、どのように活用すると効果的か！

道徳の学習活動で大切なことは、下の①～④の場面が授業の中で展開されることが重要です。ICTの効果的な活用を授業のねらいに沿って意図的に取り入れることで、子供達の学習活動をさらに促すことができます。

① 自分の考えを持つ

② 他者の意見を知る

③ 他者と話し合う

④ 自己を見つめる

【ねらう効果】

自分との関わりの中で考え

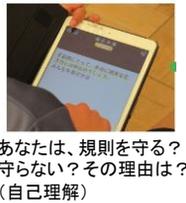
一面的な見方から多面的・多角的な見方へ

自己(人間)の生き方について考えを深める

双方向で端末を活用する効果と具体的機能

- ① みんなの前で話すことが苦手な子も、多数の意見を気にせず自分の考えを表すことができる。
【自分の考えを持つ】
- ② 瞬時に全員の意見の分布を集約→さらにその根拠も含めて提示することができる。【多数の考えを一瞬で共有できる→その後の対話による多面的・多角的に考える学習活動の時間確保にもつながる】
- ③ 自分の考えに似た友達の影響や違う考えに興味を示しながら、多様な意見に触れることができる。
【他者の意見を知る】 ※より多くの意見に触れることは、多面的・多角的に考える出発点
- ④ その授業で考えたことやどのように自己を見つめていたか以前と比較して成長を実感することができる。

1 考えの表出・表現機能



あなたは、規則を守る？守らない？その理由は？(自己理解)

- ・一人一人が自分ごととして考える必然性生まれる
- ・多数意見に影響されにくく本音が出しやすい



- 指導の意図
- ①自己内対話で自分自身を見つめて考え・捉えを表出させたい。
 - ②人間理解(弱さ)に着目して、本音の意見を聞きたい。
 - ③自分の意見をしっかり持つことでその後の議論等に活かしたい。
- 効果・留意点
- 「私はこう考える」と主体になって自分自身の答えを出す場面が生み出せる。

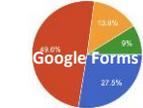
2 アンケート集計機能



同じ「YES」でもどちらに寄っているが見える



少数意見に着目して考えてほしいことが隠れている場合がある



全体に対する割合(数)で「意見・イメージ等」の一般性を確認できる

- ・自分の考えを全体から視覚的に眺める
- ・思考の分布・意見の割合を可視化できる



- 指導の意図
- ①回答者がわかる方がいい？
 - ②同じ意見でも微妙な違いをみたい？
 - ③意見の割合や授業前後を比較したい
 - ④前もってアンケート？授業で行う？
- 上記を意図的に活用することで
- ・全体的な捉えの確認
 - ・少数でも新たな視点に着目
 - ・授業前後の考えの変化等
- 授業のねらいに沿った意図的な活用が主体性をさらに引き出す。
- 効果・留意点



3 共有機能



自分と違う意見の人に質問してみよう！この人の理由を聞いてみたいというのありますか？



友達の振り返りから新たな気づきを探そう！

- ・多くの意見に触れる
- ・他者の意見に触れ、自分とは違う視点で考えを深める(他者理解)



- 指導の意図
- ①授業のねらいに迫る部分で、他者の意見に触れることで、多面的・多角的な視点を持たせたい。
 - ②授業後の振り返りを共有して、さらに考えを深めてほしい。
- 効果・留意点
- 共有して終わりではなく、共有する意図が大切(どのような事に活かす)。情報量が多いと処理できないので他者の意見に触れる必然性を与える

4 記録・蓄積機能



自分の考えを端末に保存する



学びの記録を端末に蓄積する

- ・自らの足跡を振り返ることができる(学期・年間)
- ・変化や成長を実感する
- ・データは長期間継続して積み残せる



- 指導の意図
- ①タイピングが書いたものをカメラで撮って蓄積するかは子供の実態に応じて行うことができる。
 - ②教師が、記録の蓄積から評価と指導に生かしたい。
- 効果・留意点
- 振り返る「場・視点」を意図的に設定する(「去年は友情についてどう考えていたかな？」等)。自分の成長に気づくこともできる。